

国際ロータリー会長

李 東建

地区ガバナー

馬場 信彦

北クラブ会長

石川 友意

幹事

米山キクエ

SAA

外山 裕一

# 三条北ロータリークラブ週報

例会日 2008. 10. 21計 No.1058当年 No.15



夢をかたちに

例会日:火曜日 12:30 ~ 13:30

例会場:三条ロイヤルホテル TEL 34-8111 FAX 34-8114

事務局:三条市本町 3-5-25 三条ロイヤルホテル内

TEL 0256-35-7160 FAX 0256-35-7488

ホームページ:<http://www.sanjo-nrc.org>

メールアドレス:north@sanjo-nrc.org

本日の出席:67名中41名

先々週の出席率:

68名中51名76. 12%

(前年同期72. 05%)

先週のメークアップ:(敬称略)

10月16日三条東RCへ

中條耕二

17日吉田RCへ

落合益夫

21日「大谷徹奨師講演会」

石川友意、岡田 健

斎藤 正

本日の行事:「帰国報告会」



「ロータリーの友」

10月号紹介

\* 横組み10頁

「出前授業のすすめ」

本日のメニュー: 合計1029 kcal

ポシーフードクリームスープ

132

サーモンおろし和風ソース

321

豚バラ刺身ミョウガソース

278

ライス

168

ケーキとフルーツ

130

## 会長挨拶

石川 友意会長



本日の行事は我クラブからの推薦で、国際親善奨学生としてイギリスへ1年間留学された山岸早瀬さんからの帰国報告でございます。中條年度で奨学生に決まり、渡辺年度で出発、9月に帰国されました。たいへん優秀な成績を修めて

こられたそうで卓話が楽しみです。山岸さんは本日我クラブを皮きりに、三条RC、加茂RC、燕RCと卓話に行かれるそうです。又、本日先週ご案内させていただきました、大谷徹奨師の第2回目の講演会が、中一と小六の子供達を対象に第三中学校にて開催されます。今回は子供達向けの内容で話される様でございますのでまた楽しみです。午後2時からでございますので、例会終了してから向かって間に合います。どうぞふるってご参加下さいませ。

来る11月16日は地区大会でございます。我クラブはコホストクラブになっておりまして全員登録となっております。出来るだけのご出席お願い致します。又、10名ほどお手伝いいただく方を後日決めさせていただきたいと思っておりますので重ねてお願い致します。

季節の変わり目で体調を崩されていられます会員が多いようです。ご自愛下さい。

\* 教育的プログラム (ロータリー財団のプログラムの1つ)

ロータリー財団国際親善奨学金

大学レベルの民間の留学プログラムとしては、世界最大のものである。RCの所在する他国で勉学又は研修を受けるために国際親善奨学金が授与される。留学期間中、ロータリー奨学生は留学先の国で親善大使を務める。

## 幹事報告

### 米山キクエ幹事

- ・ 2560地区幹事、地区大会実行委員長より 地区大会お手伝いのお願い  
11/16地区大会当日、三条市内各RCより10名のお手伝いをお願いします  
当日は全員登録となっておりますのでご出席宜しくをお願いします。
- ・ 三条市青少年育成市民会議より  
三条市青少年健全育成ネットワーク会議懇談会の開催について  
日時 平成20年10月29日(水) 19:00～  
会場 青少年育成センター

## 委員会報告

親睦活動：次週28日は4回目の夜例会「ハロウィン例会」です。石丸孝行会員から頂きましたカボチャは順調に育っておりまして、丁度いい熟れ具合です。例会に見ていただこうと思っています。親睦を深めていただけるように親睦委員会一丸となって準備を進めています。皆さんの出席をお願いします。  
出席の皆さんにはお菓子を一個(一袋)持ってきていただきたいと思います。ゲームに使わせていただきます。

### ニコニコBOX:21日現在累計302,000円

- 笹原 壯玄君 先日は私はじめニコニコのメンバーが全員欠席してしまい堀川会員に務めて頂きました。私のいなかったお陰で高額な入金がありました。
- 斎藤 正君 早退しますので
- 馬場直次郎君 3～4日前、齊藤興一さんの入院されている三条病院へ大好きな郷土史の本を持って、お見舞いに行ってきました。ご本人はすこぶるお元気でホッとしました。早く元気になって又、ロータリーへ出ていきたいとおっしゃっていました。そして皆さんに宜しくお伝え下さいというメッセージを預かってきました。
- 石川 友意君 山岸さん卓話ありがとうございます。
- 渋谷 義徳君 目の前にニコニコボックスがありました。ボックスに協力します。
- 丸山 勝君 BOXに協力

### 米山奨学BOX

山本 賢君 山岸さん、ご苦労様でした。楽しみにしています。

## 本日の行事

### 「帰国報告」

**Make a little difference** -人生に、ちょっとした変化を-

RI第2560地区2007-08年度

ロータリー財団国際親善奨学生 山岸早瀬さん

私は2007-08年国際親善奨 学生として、三条北ロータリークラブの推薦



で国際ロータリー1150 地区、イギリスの南ウェールズに位置する Rotary Club of Cardiff に派遣していただきました。

2007 年 8 月 4 日。ロンドンから高速バスで西に移動すること 3 時間半。ウェールズの首都カーディフに到着すると、受け入れ先の Rotary Club of Cardiff のロータリアンの方がお迎えに来てくださっていました。初めてのことばかりで心細い中、どんなに安心したことでしょう。その後、1 週間のホームステイを受け入れてくださった Hockly 夫妻のお宅まで送っていただきました。翌日には、ゴルフクラブのランチに招待していただき、1 年間でお世話になる受入れクラブの方々にお会いしました。

私は Hockly 夫妻のお宅に 1 週間ホームステイをしながら、これから大学院で学ぶ留学生向けの短期英語コースに通いました。このホームステイを通して、街の歴史や生活情報、イギリス人の生活、価値観といった様々な事を楽しく学ばせていただきました。Hockly 夫妻はガーデニングが趣味で、よく紅茶を飲みながら世界情勢や環境問題について議論する、知的で物静かなご夫婦です。よく「イギリスの料理はまずい」と聞きますが、それは偏見です。「家庭料理」はおいしいのです。ご夫妻は、お食事にはお庭で採れたばかりの新鮮な野菜や果物を使い、大変おいしい家庭料理をご馳走してくださいました。ただし、私の 1 年間の滞在経験から、イギリスの外食は噂どおりあまり美味しくないことが多かったのです。聞いた話によると、イギリスは階級社会だったので、富豪の家にはお抱えコックがいたため、レストランなどの外食産業が発達しなかったことが理由の一つだと考えられるそうです。次に、イギリス人は物を大切に、長く使います。例えば、お食事を出していただいた時のお皿は、ご家庭で代々受け継がれている物であったり、食器や調度品は歴史の重みを感じる美しいアンティークが多かったです。休日の過ごし方は色々ですが、イギリ

ス人は自然を愛し、大切に守っています。野鳥の音が響く美しい国立公園での散歩やピクニック、お庭でホームパーティー、又はパブでサンデーランチと呼ばれる多めのご馳走を家族でゆっくり食べたりして過ごします。

ロータリーの活動としては、7 つのロータリークラブでスピーチを行った他、国際交流イベントやチャリティ活動への参加などを行いました。9 月には、24 ヶ国から学びに来たイギリス全土のロータリー奨学生と共に、オリエンテーションに参加し、奨学生の責務について再確認しました。夜は現地ロータリアンと一緒に、イギリスの伝統ダンスを踊りました。国籍も年齢も違う人達が手を繋ぎ、大きな環を作りました。その時、「世界は 1 つ」と肌で感じ、目頭が熱くなりました。10 月の地区大会では、ロータリー財団前会長のウィリアム B.ボイド氏が、世界平和とロータリーの意義について、熱心に語られました。その会場中に共有された、強い祈りと決意が、私の心にも共鳴しました。ステージから降りた前会長は、私と握手してくださいました。他にも、これらのイベントを通して、元ロータリー世界平和奨学生で、現在イラク救援活動を行っている日本人女性や、ミャンマーで活動するイギリス人ジャーナリスト等、世界で活躍する国際人とお会いする貴重な機会を頂きました。同時に、自分が無力に感じ、悔しい思いもしました。

今の私には、ステージ上で世界平和を訴えることも、イラクに行くこともできません。しかしながら、私にできることを少しずつ実践してきました。学業に励む傍ら、新潟の文化について紹介するスピーチとバナー交換を行う等、週に 1 度はロータリーの活動に携わりました。全部で 7 つのロータリークラブでスピーチとバナー交換を行いました。派遣先のロータリークラブは、様々なチャリティ活動を行っていますが、私は地元のお祭りにスタンドを立てて、ロータリーの活動を人々に知ってもらうお手伝いをしました。お祭りの

会場に建てられたテント内には、被災地に避難テントと非常食・生活用品をセットにした「シェルター・ボックス」を供給したチャリティの説明等が解り易く展示されていました。地元の人々が興味深そうに見に来てくださったり、お祭りに来たロータリアンの方々がちょっと立ち話にいらっしやいました。イギリスのロータリーの活動に参加して感じたことは、いつも「楽しみながらチャリティを行う」という姿勢です。どんな活動でも、ジョークが飛び交い、皆がよく話し、よく笑っていました。他のロータリーを通じた私の活動としては、今年のロータリーGSEプログラムの職業・文化研修先の国が偶然にも日本が選ばれたため、私はGSEチームのメンバーに日本語や日本文化を教えるボランティアを行いました。自国の文化ながら、曖昧に理解していた部分が多いことに気付かされ、私自身の方が多くのことを学ばせていただけた体験でした。

学業・大学生活としては、カーディフ大学社会学部で教育学を学びました。様々な国から集まったクラスメイトと、プレゼンテーションやディスカッション等を通して互いに学び合う授業は、大変刺激的な経験でした。母国語以外での勉強は初めての経験で、苦労も多かったですが、課題論文の成績は、英語のネイティブスピーカーが半分いる中で、クラスで2番を取ることができました。修士論文としては、イギリスの大学では、授業資料や課題をすべてインターネット上でやりとりするなど、情報機器の教育的活用が日本よりも進んでいる点が興味深いと思い、「大学のeラーニング」をテーマに論文を執筆しました。研究の為に、在籍していたカーディフ大学を始め、オクスフォード大学、ケンブリッジ大学、ロンドン大学等の先生方に取材をしました。多くの方々に協力していただき、無事論文を提出し終え、現在は卒業審査の結果を待っているところです。

勉強の息抜きも、ストレスの多い大学院留

学には欠かせません。「仕事と遊びのメリハリをつけて効率良く!」、それがイギリス式です。初めの頃は図書館や部屋で勉強ばかりしていましたが、ロータリアンの方々に「気分転換にパブでお酒を飲みなさい」とパブに連れて行っていただいたり、「私は週末に勉強したことなど人生で一度も無い」、「旅行に行ったり、美術館や文化遺産を訪れるのも留学の醍醐味だよ」等と、イギリス式のアドバイスをいただき、様々なところへ連れて行っていただきました。

特に私は、ケルト文化を伝承するウェールズの神秘的で独特な文化に魅了され、勉強の合間に様々な文化遺産を訪れました。ウェールズには多くの城跡が残っています。「なんて美しい!」と言うと、一緒に訪ねたロータリアンの方に叱られてしまいました。「なぜウェールズにこんなにお城が多いのか知っている?これらは、ウェールズを征服するために作られたんだ。我々の先祖は、追い詰められ、苦しめられ、言語と文化を奪われたんだ」。私は、大変浅はかだったと反省し、観光ではなく、文化を学びたいと強く思いました。そこで、歴史を調べたり、イングランドにかつて「殺された言語」である、「ウェールズ語」を、それを母語とするロータリアンの方々から教えていただきました。結果、簡単な挨拶は言えるようになりました。また、興味深いことに、政府の方針で、ウェールズの公式な書類や標識は、全て英語とウェールズ語の二重表記になっています。BBCウェールズは、ウェールズ語のテレビとラジオのプログラムを作っています。毎年夏に開催されるウェールズ芸術祭にもロータリアンに連れて行っていただきましたが、司会進行から歌や詩などのコンテストが全て特別にウェールズ語で行われていました。そこでお会いしたウェールズ語が第一言語のロータリアンの方々は、私にこう言いました。「ここは私たちの国よ!これは私たちの言語よ!なぜ日常で通じないの?」。「私たちはマイノリティだ。だから大声で叫

んでいる。『おーい、僕たちはここにいるよ！』と。そうしなければ、我々の文化は消えてしまう」。私は、ウェールズ人という文化的マイノリティの人々の気持ちに直に触れ、日本では未だにイングランドとウェールズの違いの認識が薄いことを非常に残念に思いました。

最後に、この留学全体を振り返ると、個人留学ではなく、ロータリーの奨学生として留学させていただいて、本当に良かったと思う点が多くあります。例えば、現地ロータリアンの方々と日常的に交流する機会が多くあり、日々の生活レベルでの現地の人々の考え方や文化に触れることができました。また、同じ年代や学生だけでなく、様々な職業や世代の人々と知り合えることができました。そして、常に「日本の代表」として扱われ、常に自国の文化を意識させられ、日本文化を世界にどう発信していくのかを、考えさせられました。時に国際人の一員になれたような達成感を得ることもあれば、自分が無知で恥ずかしくなり、悔しい思いをすることもありました。

あるロータリアンが、こうおっしゃいました。「なぜ私はロータリアンになったのか？それは、自分の人生と世界に、『ちょっとした変化』を与えるためだ」。おそらく私も、自分の

人生をちょっと変えたい、世界をちょっと変えたい、そんな思いでこのプログラムに挑戦したのかもしれませんが。新潟大学の大学院を卒業し、そのまま就職し、それでも平穩に人生は終わったかもしれませんが。しかし、私はこのプログラムに参加していなければ、国際社会に生きる一員として、無知で悔しい思いをすることもなかったでしょう。日本以外に世界にはどんな人たちがいて、どんな文化や信念を持って生きているか、考えもせずに命を終えたでしょう。そして、留学中に流した感動の涙を、流すことも無かったです。

今後は、国際理解に関するお仕事をしたいと思い、先日、日本語を世界で教えるための資格試験を受けたところです。私の1年間の国際親善奨学生としての経験は、今後の日本の国際化に役立てるのではないかと、現在将来の道を楽しく模索しているところです。

ロータリーの活動を通じた「人生のちょっとした変化」が集まり、日本を、世界を変えていけると信じています。そのような活動に参加させて頂けたことを、誇りに思います。素晴らしい経験をさせて頂き、本当にありがとうございました。



2008年

8月9日  
ウェールズの祭  
「Eisteddfod」  
にてロータリー  
の活動アピール  
のお手伝い。

2008年2月27日 RC Llandaff 主催「International Night」



2008年9月21日 お別れ会

